（別紙４－１）（ユニット２）

# 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要（事業所記入）】

| | | | |
|---|---|---|---|
| 事業所番号 | 019300072 | | |
| 法人名 | 株式会社すまいるふらの | | |
| 事業所名 | ごりょうの丘グループホーム　イチョウユニット | | |
| 所在地 | 富良野市字下御料 | | |
| 自己評価作成日 | 令和5年10月30日 | 評価結果市町村受理日 | 令和6年3月25日 |

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

| | |
|---|---|
| 基本情報リンク先URL | https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/01/index.php?action_kouhyou_detail_022_kani=true&JigyosyoCd=0193000072-00&ServiceCd=320 |

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

小高い丘に建ち、自然豊かな公園や目の前には富良野スキー場、夜になると街の明かりが輝き一望できます。 敷地内には、中庭や駐車場の隣に畑があり春には野菜を育てたり、地域交流で近隣の高校生と一緒に花を植え鑑賞しいぇいます。 利用者様個々に興味のある事や、やりたいことを行っていただきながら、役割の持てる生活を送っています。 収穫期には、一緒に収穫し令和5年5月にコロナ感染症が五類に移行してからは、数年できなかった季節の行事や外出を月に一度は行っています。収穫祭では、利用者様やご家族にも参加し食べていただき食に関しても、嗜好に合わせた食事の提供をしています。

【評価機関概要（評価機関記入）】

| | |
|---|---|
| 評価機関名 | 合同会社　mocal |
| 所在地 | 札幌市中央区北5条西23丁目1-10-501 |
| 訪問調査日 | 令和5年11月27日 |

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点（評価機関記入）】

## Ⅴ　サービスの成果に関する項目（アウトカム項目）　※項目№1～55で日頃の取組を自己点検した上で、成果について自己評価します

| | 項　目 | 取組の成果 ↓該当するものに○印 | |
|---|---|---|---|
| 56 | 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向をつかんでいる（参考項目：23、24、25） | | 1　ほぼ全ての利用者の |
| | | | 2　利用者の2/3くらいの |
| | | ○ | 3　利用者の1/3くらいの |
| | | | 4　ほとんどつかんでいない |
| 57 | 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある（参考項目：18、38） | ○ | 1　毎日ある |
| | | | 2　数日に1回程度ある |
| | | | 3　たまにある |
| | | | 4　ほとんどない |
| 58 | 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている（参考項目：38） | | 1　ほぼ全ての利用者が |
| | | ○ | 2　利用者の2/3くらいが |
| | | | 3　利用者の1/3くらいが |
| | | | 4　ほとんどいない |
| 59 | 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている（参考項目：36、37） | | 1　ほぼ全ての利用者が |
| | | ○ | 2　利用者の2/3くらいが |
| | | | 3　利用者の1/3くらいが |
| | | | 4　ほとんどいない |
| 60 | 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている（参考項目：49） | | 1　ほぼ全ての利用者が |
| | | ○ | 2　利用者の2/3くらいが |
| | | | 3　利用者の1/3くらいが |
| | | | 4　ほとんどいない |
| 61 | 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている（参考項目：30、31） | ○ | 1　ほぼ全ての利用者が |
| | | | 2　利用者の2/3くらいが |
| | | | 3　利用者の1/3くらいが |
| | | | 4　ほとんどいない |
| 62 | 利用者は、その時々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている（参考項目：28） | | 1　ほぼ全ての利用者が |
| | | ○ | 2　利用者の2/3くらいが |
| | | | 3　利用者の1/3くらいが |
| | | | 4　ほとんどいない |

| | 項　目 | 取組の成果 ↓該当するものに○印 | |
|---|---|---|---|
| 63 | 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている（参考項目：9、10、19） | | 1　ほぼ全ての家族と |
| | | ○ | 2　家族の2/3くらいと |
| | | | 3　家族の1/3くらいと |
| | | | 4　ほとんどできていない |
| 64 | 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている（参考項目：2、20） | | 1　ほぼ毎日のように |
| | | ○ | 2　数日に1回程度 |
| | | | 3　たまに |
| | | | 4　ほとんどない |
| 65 | 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている（参考項目：4） | | 1　大いに増えている |
| | | | 2　少しずつ増えている |
| | | ○ | 3　あまり増えていない |
| | | | 4　全くいない |
| 66 | 職員は、活き活きと働けている（参考項目：11、12） | | 1　ほぼ全ての職員が |
| | | | 2　職員の2/3くらいが |
| | | ○ | 3　職員の1/3くらいが |
| | | | 4　ほとんどいない |
| 67 | 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う | | 1　ほぼ全ての利用者が |
| | | ○ | 2　利用者の2/3くらいが |
| | | | 3　利用者の1/3くらいが |
| | | | 4　ほとんどいない |
| 68 | 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う | | 1　ほぼ全ての家族等が |
| | | ○ | 2　家族等の2/3くらいが |
| | | | 3　家族等の1/3くらいが |
| | | | 4　ほとんどできていない |

（別紙４－１）（ユニット２）

# 自己評価及び外部評価結果

| 自己評価 | 外部評価 | 項　目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|---|---|---|---|---|---|
| | | | 実施状況 | 実施状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| **Ⅰ 理念に基づく運営** | | | | | |
| 1 | 1 | ○理念の共有と実践<br>地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念を作り、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている | ・会社の理念を基に、ホーム目標をかかげ管理者、職員と再確認しながらR5年5月から随時実践している。 | | |
| 2 | 2 | ○事業所と地域とのつきあい<br>利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している | ・毎年行われる神社祭では、施設全体で参加し。 町内会のゴミ拾いは、施設周辺のゴミ拾いと交流会の焼肉に参加しています。 | | |
| 3 | | ○事業所の力を活かした地域貢献<br>事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている | 毎月認知症カフェを開催しボランティアや地域の方々が参加。認知症予防や認知症サポーター研修を実施。 | | |
| 4 | 3 | ○運営推進会議を活かした取組<br>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている | ・二ヶ月に一度開催し、自治会長、民生委員、市担当職員、ご家族に参加いただき、事業所報告や行事内容をお伝えしご意見ご要望をお聞きし、サービス内容に活かしています。 | | |
| 5 | 4 | ○市町村との連携<br>市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる | ・主に運営推進会議で、相談したり意見をいただいている。 | | |
| 6 | 5 | ○身体拘束をしないケアの実践<br>代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる | ・施設全体に出入口が多く、数年前に利用者様が外にでたこともあり、市からのアドバイスとして日中は中庭に面した出入口を開放し、夜間帯は防犯面で玄関の施錠を行っています。 | | |
| 7 | | ○虐待の防止の徹底<br>管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないよう注意を払い、防止に努めている | ・定期の研修で、虐待と思われる行為を再確認し、介護方法や声掛けが適切か職員間で注意を払い、最小限の行為であっても共有し話し合いし虐待防止に努めています。 | | |

| 自己評価 | 外部評価 | 項　目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|---|---|---|---|---|---|
| | | | 実施状況 | 実施状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 8 | | ○権利擁護に関する制度の理解と活用<br>管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している | ・社内研修で権利擁護と成年後見人制度について理解し、必要な方に繋げられる体制を整えており、実際に利用されているため情報共有し連携を取っている。 | | |
| 9 | | ○契約に関する説明と納得<br>契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている | ・契約時には、ご本人、ご家族へわかりやすい説明をこころがけ、気になることやわからない事があれば、いつでも連絡いただけるよう伝えています。 | | |
| 10 | 6 | ○運営に関する利用者、家族等意見の反映<br>利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている | ・二ヶ月に一度開催の地域密着型運営推進会議で、ご意見ご要望があったときには、議事録にまとめ郵送し周知いただいている。 直ぐに改善できる課題については、実施するよう努めている。 | | |
| 11 | 7 | ○運営に関する職員意見の反映<br>代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている | ・上下半期の年に二回、社内全体の運営推進会議が開催され、社員から質問や意見を出し、改善が必要な場合は管理者会議を開き反映するよう努めている。 | | |
| 12 | | ○就業環境の整備<br>代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている | ・上下半期の定期的な個人面談や、必要に応じて面談を実施している。今年度は、外部講師を招きプロデュースを依頼。事業所毎に発表する機会があり、目標を立てて実践している。 | | |
| 13 | | ○職員を育てる取り組み<br>代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている | ・個人目標を設定し、目標に必要な研修や能力を高められる研修、意識向上にむけた研修等を受けスキルアップに努めている | | |
| 14 | | ○同業者との交流を通じた向上<br>代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組をしている | ・毎月開催している地域ケア会議、他施設見学、遠方であればZOOMを通し意見交換しサービスの質の向上を目指している。 | | |
| **Ⅱ　安心と信頼に向けた関係づくりと支援** | | | | | |
| 15 | | ○初期に築く本人との信頼関係<br>サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている | ・入居前に面談と施設内見学を実施し、現在の生活スタイルと元からのこだわりや、地域との関係等をお聞きし希望に近づける環境作りと生活に慣れるための関係作りを行っています。 | | |

| 自己評価 | 外部評価 | 項　目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|---|---|---|---|---|---|
| | | | 実施状況 | 実施状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 16 | | ○初期に築く家族等との信頼関係<br>サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている | ・入居前に面談と施設内見学を実施し、現在の生活スタイルと本人のこだわりや、地域との関係、家族からの願いや要望を伺い、心配事があれば時間問わず連絡をしていただけるように伝えている。 | | |
| 17 | | ○初期対応の見極めと支援<br>サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている | ・入居前の本人の出来ていること、趣味嗜好、必要に応じたサービスの情報を提供し必要な支援内容を確認後、利用の検討を含めた話し合いをする。 | | |
| 18 | | ○本人と共に過ごし支え合う関係<br>職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている | ・生活の中の食事の準備、畑作業、針仕事、買い物、商品を選んだり荷物を持つなど、日常生活の当たり前を共に行っている。 | | |
| 19 | | ○本人を共に支え合う家族との関係<br>職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている | ・衣替え、外出、利用者によっては面会を頻繁に行い一緒に過ごせる時間を作る。イベント時は、声を掛け参加していただく。お盆の親戚の集まりを交流館で行う。定期的に自宅に外出する。個々に合った関係性を続けています。 | | |
| 20 | 8 | ○馴染みの人や場との関係継続の支援<br>本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている | ・毎月の教会礼拝、友人との外出交流、近所の方との再会など、家族を通して関係性を広げています。 | | |
| 21 | | ○利用者同士の関係の支援<br>利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている | ・関係を把握し今年度は2回の席替えを実施。関係を把握していたつもりでも、席替えしたことで孤立してしまったことがあった。理解力にも差がある為、職員が会話の架け橋となることで、関係性が保てている。 | | |
| 22 | | ○関係を断ち切らない取組<br>サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている | ・退去されたご家族と交流あり、ボランティアに参加していただいている。 | | |
| **Ⅲ　その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント** | | | | | |
| 23 | 9 | ○思いや意向の把握<br>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している | ・利用者様からの聞き取りと、ご家族、友人知人から話を伺い、希望に添った支援を行っている。 | | |

| 自己評価 | 外部評価 | 項　目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|---|---|---|---|---|---|
| | | | 実施状況 | 実施状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 24 | | ○これまでの暮らしの把握<br>一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている | ・会話から、以前の暮らしの聞き取りとご家族から情報を得て、生活スタイルや本人の性格からどのようなサービスが適切であるか職員で話し合い、支援している。 | | |
| 25 | | ○暮らしの現状の把握<br>一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている | ・主な一日の過ごし方をケース記録で共有し、時間軸に添って家事や作業を共に行ったり、気分転換に室内外の散歩に出かけている。 | | |
| 26 | 10 | ○チームでつくる介護計画とモニタリング<br>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映し、現状に即した介護計画を作成している | ・本人の意向を基に計画を立て、モニタリングで不足なケアについて話し合い、ご家族に内容について聞き取り要望を組み入れている。 | | |
| 27 | | ○個別の記録と実践への反映<br>日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている | ・日々のケース記録と申し送りで、体調不良、食欲不振、睡眠不良、本人の訴えなど職員間で共有し必要に応じた話し合いを行い、結果をケース記録に入力し計画見直しをしている。 | | |
| 28 | | ○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化<br>本人や家族の状況、その時々に生まれるニーズに対応して、既存のサービスにとらわれない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる | ・NPO法人ふまねっと、ちょこっと体操、認知症カフェなどニーズに合わせた対応をしている。施設内は、事業所や交流館と自由に行き来できるように開放されている。 | | |
| 29 | | ○地域資源との協働<br>一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している | ・町内会の焼肉や、認知症カフェでボランティアと地域の方々との交流、近郊の高校生と花植えを行うなど、一緒に楽しむ機会がある。 | | |
| 30 | 11 | ○かかりつけ医の受診支援<br>受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している | ・かかりつけ医は、本人希望される病院を選んでいただき、通院同行や必要に応じて往診もあり定期的に行っています。 | | |
| 31 | | ○看護職員との協働<br>介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している | ・体調不良時は、看護師へ伝え相談している。必要なケアや指示に従い対応。訪問看護師には、日頃の情報共有と相談もできている。 | | |

| 自己評価 | 外部評価 | 項　目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|---|---|---|---|---|---|
| | | | 実施状況 | 実施状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 32 | | ○入退院時の医療機関との協働<br>利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている、又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。 | ・入院時は、基本の情報提供し気を付けなければならない些細なことは口頭で伝え、主にご家族も同席が多く一緒に情報交換ができている。入院時に必要は物を準備しお届けするなど対応している。入院期間中も医療相談担当者と電話連絡し情報収集できている。 | | |
| 33 | 12 | ○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援<br>重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者とともにチームで支援に取り組んでいる | ・重度化や終末期の方針について、本人、家族へ事前に意向を確認しています。希望に応じて多職種と連携し継続した支援を行います。 | | |
| 34 | | ○急変や事故発生時の備え<br>利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている | ・コロナ禍で実施できなかった救命救急講習を、10月に研修を受けAEDを使い訓練を実施している。急変時の対応についての流れを、フローチャートにを用いて再確認している。 | | |
| 35 | 13 | ○災害対策<br>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている | ・コロナ禍で自粛していた避難訓練を実施。日中や夜間想定で訓練し災害時については、ボランティア会の協力で炊き出しを行った。 | | |
| **Ⅳ　その人らしい暮らしを続けるための日々の支援** | | | | | |
| 36 | 14 | ○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保<br>一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている | ・今まで築きあげてきた暮らしを、尊重し羞恥心を損ねない配慮と声掛けをしています。特に、入浴や排泄時には露出を極力抑えるケアを行っています。 | | |
| 37 | | ○利用者の希望の表出や自己決定の支援<br>日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている | ・起床就寝時間は、決めずに個々のペースにある程度任せている。着替えの用意も、好みがある方にはご自分で用意していただき、入浴時間も極力希望に応じた対応をしている。 | | |
| 38 | | ○日々のその人らしい暮らし<br>職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望に沿って支援している | ・利用者様の希望に添える過ごし方を目指しているが、日によっては病欠等で職員都合になってしまうことがある。 | | |
| 39 | | ○身だしなみやおしゃれの支援<br>その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している | ・起床時の洗面時に、化粧水や整容の声掛けと介助をしている。 男性利用者様には、髭剃りの声掛けや介助を行っている。 着替えが苦手な方には、入浴時に衣類を替えていただく準備をしている。 | | |

| 自己評価 | 外部評価 | 項　目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|---|---|---|---|---|---|
| | | | 実施状況 | 実施状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 40 | 15 | ○食事を楽しむことのできる支援<br>食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている | ・食事の配置と利用者様の盛り付け、温かいおかずは温め湯気の上がる食事の用意を意識している。 毎食後は、職員が食器を洗い利用者様が食器を拭いている。 | | |
| 41 | | ○栄養摂取や水分確保の支援<br>食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている | 食事は、野菜が中心で肉・魚などのたんぱく質なおかずが毎食出ている。 食事量と水分量を必ずチェックし1日の量を確認し、少ない時には食べ飲みやすい嗜好に合わせた工夫をしている。 | | |
| 42 | | ○口腔内の清潔保持<br>口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている | ・毎食後、歯磨き促しと見守り、必要に応じて介助している。隔週で歯科往診があり、介助が困難な利用者様のメンテナンスを行っている。 | | |
| 43 | 16 | ○排泄の自立支援<br>排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている | ・一日の排泄パターンを記録で共有し、個々の時間に声掛け誘導し失禁を減らし自立につながるケアをしています。 | | |
| 44 | | ○便秘の予防と対応<br>便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる | ・毎日、排便確認し便秘にならない様、牛乳、ヨーグルト、ヤクルトのいずれかを毎朝選択し飲んでいただき、体操や歩行運動の声掛けと介助に努めています。 | | |
| 45 | 17 | ○入浴を楽しむことができる支援<br>一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に沿った支援をしている | ・ゆっくりお風呂に入っていただくために、一日の入浴者を決めている。体調不良や希望されない時には無理強いせず別な利用者様と変わっていただいている。基本の時間はあるが、本人のタイミングに合わせて入浴している。 | | |
| 46 | | ○安眠や休息の支援<br>一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している | ・夜間帯は、生活習慣に合わせた就寝時間を心がけ、起床時も起きたい時間に起きていただき食事までお茶を飲んでお話している。休息は、自由に取っていただいている。 | | |
| 47 | | ○服薬支援<br>一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている | ・薬情報、薬の内容、効果副作用については、通院同行した後、通院報告書で確認し看護師からも説明をうけ共有できている。 | | |

| 自己評価 | 外部評価 | 項　目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|---|---|---|---|---|---|
| | | | 実施状況 | 実施状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 48 | | ○役割、楽しみごとの支援<br>張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている | ・利用者様一人ひとりの、こだわりや習慣、楽しみを会話の中で聞き出し、行事や外出、面会などで楽しみ、個々の出来ることを活かし裁縫や野菜を使ったおやつ作り等を行っている。 | | |
| 49 | 18 | ○日常的な外出支援<br>一人ひとりのその日の希望に沿って、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している | ・いつもは行かない場所へドライブしたり、家族を通して暮らしていた家のご近所の方の家まで一緒にいき話をするなど、協力いただける限り出かけています。 | | |
| 50 | | ○お金の所持や使うことの支援<br>職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している | ・お金の管理ができる方は、財布を持っていただいています。外出時に買い物し支払うことや、施設内の売店でお菓子を買うこともあります。 | | |
| 51 | | ○電話や手紙の支援<br>家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている | ・遠方に家族がいる方には、定期的にオンラインでお話をしています。携帯電話を持たれている利用者様は、ご自身で電話を自由にかけている。 個人宛に手紙やハガキが届くこともあり、返事を書くために便箋封筒購入し書いている方もいます。 | | |
| 52 | 19 | ○居心地のよい共用空間づくり<br>共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている | ・季節ごとに、壁に装飾したりカレンダーに印をつけ、何月何日かわかるようにしている。<br>室内の温度は、過ごしやすいよう温度計を確認し調整できている。<br>リビングの食卓テーブルは、座席が決まっており利用者様もほぼ理解されている。 | | |
| 53 | | ○共用空間における一人ひとりの居場所づくり<br>共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている | ・施設内には、ベンチスペースやTVスペースがあり、座ってお一人で過ごすこともあり、リビングのTV前にはソファがあり利用者様同士でTV鑑賞されることもある。 | | |
| 54 | 20 | ○居心地よく過ごせる居室の配慮<br>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている | ・入居時に、自宅にある家具や飾りを持参いただき、使いやすいように本人と家族が配置を決めていただいている。 | | |
| 55 | | ○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり<br>建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している | ・内部は、自由に行き来できるよう配慮し、整頓が好きな方は片付けをしたり、尿意がある時は見つけやすいように「トイレ」と大きく書かれた表示をすることで、排泄の自立ができている。 | | |